

新年度予算に 20億100万円

着実に前進する 明るく住みよい町づくり

依然として厳しさを増しているわが国の経済情勢を反映し、国の予算においては、各種補助金の削減など、徹底した歳出の削減、抑制姿勢が、つらぬかれたため、新年度予算の伸び率は、六・二パーセントと、昭和三十一年以来の低さで、「超緊縮型」予算となりました。これに伴ない、町の予算も厳しく押え込まれた中で、予算編成となりました。

一般会計の予算総額は、二十億百万円で、前年度当初予算と比較して、伸び率で八・九パーセント、金額にして一億七千万円の増額となりました。

歳入面では、総額の三三・三パーセントを占める地方交付税に次いで、二九・五パーセントを占める町税は、六億二千五百三十三千円で、前年度に比べ、九・三パーセントの伸びとなっています。しかし、不況の波に見舞われている法人町民税は、前年度より七・〇パーセント、三百二十七万八千円の減額となりました。

一方、歳出を極力抑え、歳出総額の三・七パーセントを占める各種団体など（八十一件）への補助金、七千七百九十八万三千円は、原則として据え置きました。

主な重点事業

道路整備

二年目を迎えた町道、坂田、遠山線道路改良事業の用地買収に全力を投入します。



また、新島地区の大規模な農道整備事業の着手、大六天から鳥喰上を経て松尾町境に至る、農業集落道舗装整備事業など、国や県の補助による大規模事業や、部落内の生活関連道路の整備などを主眼に予算編成しましたが、各地区の要望を満たすまでには至っていませんので、緊急性の高いものから予算に具現するよう努めます。

大総

工業団地計画

千葉窒業(株)の大総工業団地進出と、同社の跡地を含めた駅北側開発計画という、一石二鳥の事業の実現のため、一年半にわたり工業団地用地の買収などを行ってきましたが、数億円の埋蔵文化財調査費と、数年におよぶ調査期間などによって、会社が、団地進出を断念せざるを得なくなりました。

新年度からは、千葉県と町との共同開発事業によって、大総工業団地計画を促進することになり、沼田知事も、三月に現地を視察しました。

今後は、一日も早く、関係者のご理解とご協力をいただき、騒音地域である大総地区の振興策として、団地造成を進めます。

総合公園計画

都市計画区域決定後は、関係者のご協力を得て、坂田池周辺に計画している休養施設、遊戯施設、運動施設を備えた総合公園を具体化させるとともに、坂田池と坂田城跡の梅林を活かして、同地区一体を観光の目玉とします。

大型共同

利用施設建設

町民広場に、ブルーシー・アン

ド・グリーンランド財団が、三億四千万円を投入して建設中であった横芝海洋センター（体育館・プール）が、四月八日に竣工式の運びとなりましたので、みなさんのご利用をお願いします。

同センターの有効利用をはかるとともに、コミュニケーションの場となるように、大型共同利用施設（約二千㎡）を、空港公園、県の助成をうけて、五十七年度、五十八年度の継続事業で建設します。

また、同敷地内に、テニスコート二面を設置しますので、町民広場は「町民ふれあいの場」として一変することになります。

商工業の振興

不況の中にある商工業の振興対策として、商店街駐車場の整備、中小企業振興融資資金の利子補給率の引き上げや、消費者モニター制度の採用などに伴う予算を計上しました。

集会施設建設

住民のコミュニケーションの場として、現在、栗山、鳥喰沼地区に集会所を建設中ですが、今後、航空機騒音対策事業の一環として、騒音地域および人口急増地域に対し、年次計画に基づいて、施設を建設する予定です。